

Stopping use of strychnine in Nose

話題

7/11/92



毎日新聞



(夕刊)

(第3種郵便物認可)

毒エサから睡眠薬へ

大阪府は七日までに、野犬駆除に二十年以上続けてきた毒エサによる薬殺を中止、今月中旬から睡眠薬を混ぜたエサを使っての捕獲に切り替える。毒エサに反対していた動物愛護団体は「一歩前進」と評価している。

薬殺は、狂犬病予防法で狂犬病のまん延防止など緊急の必要性がある場合に認められており、毒薬は、施行規則で硝酸ストリキニーネの使用を指示している。

大阪府は通常首輪やオリで捕獲し、薬殺は「夜間しか出回らないなど捕獲が困難な場合に限ってのみ使用（食品衛生課）」と説明。導所で炭酸ガスで殺処分される。

野犬捕獲

難な場合に限ってのみ使用（食品衛生課）と説明。導所で炭酸ガスで殺処分される。

最近の毒エサによる駆除数は一九八七年に十一回百二十八匹だったのが、昨年は五回で二十九匹。今年は十月末までに二回十五匹と減っていた。

これに対し動物愛護家でつくる「動物たちの会」（事務局・東京、R・ヘロルド代表ら千人）の大阪のメンバーが、府に「狂犬病のまん延の恐れがない場合の薬殺は狂犬病予防法に違反する。野生動物が食べる恐れ

大阪府、今月中旬から「一歩前進」